

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2005-2006

ROTARY INTERNATIONAL

DISTRICT 2510

No. 5
2005.11



SERVICE Above Self

2005-2006 ガバナー月信

国際ロータリー第2510地区

2005-2006年度 ガバナー

塚原 房樹 FUSAKI TSUKAHARA

〒060-0042

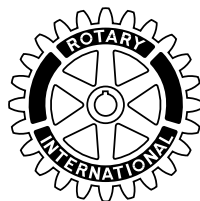
北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル3F

TEL・FAX(011)207-2510

e-mail : d2510go@wave.plala.or.jp

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

2005 - 06年度 国際ロータリーのテーマ



超我の奉仕

C O N T E N T S

ガバナーメッセージ	01
ガバナー公式訪問	03
地区委員会報告	
ロータリー財団委員会	05
国際親善奨学金委員会	08
GSE委員会	09
ロータリー財団学友委員会	10
補助金委員会	11
ロータリー財団寄付報告	12
クラブ奉仕委員会	13
ご協力に感謝申し上げます	14
新入会員のご紹介	15
例会変更・文庫通信	15
9月の出席率・会員数	16
地区カレンダー(11月・12月)	17

■ガバナーメッセージ



2005 - 2006年度
国際ロータリー第2510地区
ガバナー 塚原 房樹

「寄付と喜捨」

会長・幹事の皆さん、いかがお過ごしですか。毎日、公式訪問に明け暮れておりますが、元気に過ごしておりますのでご休心ください。この月信がお手元に届くころは地区大会も73クラブの公式訪問も終えていることでしょう。

さて11月は財団月間であります。奉仕には額に汗する奉仕と、お金を出さなければ出来ない奉仕があります。ロータリー財団や米山奨学会がそれです。我々の捧げた一灯が人類平和のため、国際レベルの人道的、教育的プログラムを通じて、世界の隅々を照らす万灯の灯りとなることを祈ります。我々は単なるお付き合いの「寄付」ではなく善意の心を持って「喜捨」をしたいものです。しかし時々「財団」や「米山」に寄付を取られたという表現を耳にします。そこで「寄付」と「喜捨」について考えてみました。

アメリカでは「困窮者に対する寄付、慈善寄付」など日常の習慣として自然体で行っていますが、日本では寄付と聞くと、つい構えてしまいます。宗教観の違いでしょうか。

ロケット博士として有名な系川英夫さんは、「日本の科学には神との緊張感が無い。なぜならニュートンの力学やアインシュタインの相対性理論を取り入れた時、背後にある神は置き去りにしてしまった。政治も経済も同じで、日本では失敗しても神への倫理的責任はあまり問われない」と云われました。ロータリーも同じです。ロータリーは本来中世キリスト教神学の復興運動であります。日本にやって来た時には背後にある神は置き去りにされました。ロータリーはピューリタンの戒律を一般生活の中で道徳として実践しようとする運動であります。特にアメリカは日常生活の中に神が遍在しています。ちなみにアメリカの全てのドル紙幣の裏には「In God We Trust(神に我々は信を置く)」というフレーズが印刷されています。社会の関係性が成立することを保証する主体が神であります。またアメリカ国歌、政治家のスピーチの中にも神に言及する表現が多くあります。

ロータリークラブの例会を教会の日曜ごとの礼拝になぞらえることは飛躍しすぎることかもしれません。しかしロータリーの哲学とその組織を考えると、両者が果たしている役割には、共通したものがまったく無いとは言い切れません。哲学と宗教は紙一重です。アメリカのロータリアンの中には日曜ごとの礼拝に欠かさず出ている人はたくさんいるでしょう。彼らは教会の他にロータリークラブの例会にも出ています。ところが幸か不幸か我々の多数はほとんど日常、宗教に関心を持っておりません。その結果、現代の社会は、「物と心」の乖離により嘆かわしい倒錯の世相になりました。戦後、連合軍総司令部は教育基本法を作り、歴史や文化、伝統、宗教を否定し続けてきたのが原因です。特に宗教観の欠如により、自分の思想で自分を律することをやめた日本人は哲学を失い、ふわふわ波間を漂う根無し草となってしまいました。

ロータリーでは政治と宗教の話はしません。またポール・ハリスはことさらロータリーと宗教を切り離そうと気を使っておりますが、それは宗教戦争まで起こした一神教世界の歴史が念頭にあるからです。またロータリーを世界へ拡大するためにRIもキリスト教の匂いを消そうと努めました。我々東洋の多神教思想で育ったものからすれば、ロータリーも一種の宗教であっても構わないのです。儒教は厳密な意味で宗教といえないかもしれませんが、それでもやはり宗教的な何かを持っています。人間の倫理を構築する基本になるのは結局宗教でしかありません。ポール・ハリスは「ロータリーは宗教でもなければその代用物でもない。古くからある道徳観を」などといっていますが、ポールの道徳観の根底にあるものはやはりキリスト教ではありませんか。そう考えてくると我々職業人の信奉する宗教として、ロータリーの唱える「職業奉仕」の精神を挙げたいのです。

以前、仕事でオーストラリアに良く参りました。シドニー空港の2階フロアーにプラスチック製の募金箱があります。シドニーRCの名前が大きく書かれています。ロータリーのよしみでいつも帰国の際、余ったオーストラリアのコインや小額紙幣を入れていました。ある時一人の小柄な夫人がつかつかと募金箱に近寄って何がしかのお金を入れました。私は思わずその夫人にあなたはロータリアンですかと聞きました。いいえとって夫人は去って行きました。しばらくすると中年の男性が幾ばくかのお金を入れました。私はまた、あなたはロータリアンですかと聞きました。ノーという返事でした。時折通りがかりの人が浄財を入れていました。キリスト教の国では寄付とか慈善という行為は宗教的習慣として広く浸透しているのだなと感じました。町の交差点でも、足の不自由なお年寄りが渡ろうとすると何人かの人がバラバラと近寄り手を貸そうとします。神様は健常者の心を試すために障害者を作られた、だから健常者は障害者に進んで手を差し伸べる、それが神の御心に適うことなのです。

ロータリー財団への寄付も自分を中心にして人様に尽くすことが「良いこと=善」だと考えていると今ひとつ判りません。国際奉仕は相手の顔がまったく見えない。誰に奉仕しているのか知らずしてそもそも奉仕ということが成り立つのが不思議です。姿の見えない人に奉仕するとは一体どういうことでしょうか。言い換えれば私たちはまだ見たことも無い、話したことも無い、知らない誰かを、本気で愛することが出来るのか。奉仕という言葉がなじめません。もともと奉仕とは神に仕えるという意味です。日本では人が人に仕える時は奉仕とは言いません。「奉仕の理想」と云っても日本人にぴんときません。奉仕という言葉日本人に判りやすい表現に置き換えると「ご恩返し」になるでしょう。「ご恩返し」は2通りあります。受けた恩を直接相手に返すギブアンドテイク型のものと眼に見えぬものへの恩返しがあります。もともと私たちの受けている恩というものが、必ずしも見える相手からの恩ばかりでなくむしろ見えない誰かから受ける恩のほうがずっと多いということに思いをいたすなら見えぬ人たちへ恩を返すのは当然であります。宗教的にいえば、私たちがここに生きていることだけで、宇宙からの無限の恩を受けているわけで、私たちの無数の先祖の血が今この命を支えて生かしてくれているわけです。私たちが見えぬあなたの人に向かって恩返しをするのは当然であります。

日本にも昔から仏教や儒教という東洋哲学の教えがあります。それらもロータリー財団への理解を深め、財団への「喜捨」をいっそう強固に裏打ちしてくれるでしょう。鎌倉時代の叡尊という律宗のお坊さんはい（ハンセン）病の人たちを収容する建物を作ったり、貧窮者に手を差し伸べたり慈善事業を行いました。私は叡尊のものの考え方を聞いてびっくりしました。それはどういうことかと申しますと、らいを病んでいる人とか、あるいは飢えに苦しんでいる人とか、家の無い子供たちというのは、実は文殊菩薩がこの世に、仮に姿を現されたものである。生きとし生けるものをこの世に作り出し、生かしている造物主とってよろしいし、神様とってよろしいし、仏様とってよろしいが、そういう大きな存在が、そこに仮に姿を現したものである。そういう風に叡尊は解釈しましてらい病を患っている人に施しをするというのは、施しをするのではない。文殊菩薩に礼拝をし、供養するのであるとこういう風にとったのであります。我々もそのらい病患者も含め、一切を作っている大きな存在に対して、供養をし、礼拝するという気持ちでいささかなりとも自分に属している財物を捧げる。こういう風に考えますと、こんなことは政府のやることだなんて理屈を考えないで、恵まれない人たちに何かを恵んでやるというような、そういう捉え方ではなく、ごく素直に奉仕が出来るのではないかという風に自分を戒めることが出来たわけであります。

大いなるものに生かされていることを自覚し、自分に属するいささかの財物を「喜捨」することにより、執着心が取り除かれる、実は自分自身が救われるのです。普通は中々「財施」のチャンスは無いものです。ロータリー財団のおかげで「喜捨・財施」が出来るといふ風に考えてはいかがでしょうか。

ガバナー公式訪問ではありがとろいございました



洞爺湖RC公式訪問（8月12日）



えりも・三石・様似・静内・浦河RC合同公式訪問（8月23日）



由仁RC公式訪問（8月25日）



札幌あけぼのRC公式訪問（8月26日）



新札幌RC公式訪問（8月31日）

ガバナー公式訪問ではありがとびいきました



苫小牧東RC公式訪問（9月1日）



苫小牧RC公式訪問（9月2日）



長万部RC公式訪問（9月5日）



函館亀田RC公式訪問（9月5日）



函館東RC公式訪問（9月6日）



七飯RC公式訪問（9月6日）





「財団月間に因んで」

ロータリー財団委員会

委員長 遠藤 正之 (札幌南RC・PG)

11月は財団月間です。財団月間とはクラブが財団プログラムを支援、推進し参加する特別な月間で、ロータリー財団の意義を知り、その活動の努力が、ロータリーが今日100年もの歴史の上にゆるぎなき基礎作りを行えたことを認証し、今後も寄付増進を会員に協力依頼する月間でもあります。既にご承知と思いますが、この財団は1917年アーチ・クラフが「社会のために良いことをしよう」と財団構想を唱え、1928年に「ロータリー財団」と名付けられたもので、本年で88年になります。その間、財団プログラムは大筋次の通りです。

教育的プログラム…国際親善奨学生プログラム、国際問題研究のためのロータリーセンタープログラム、財団学友、研究グループ交換プログラム (GSE)

人道的補助金プログラム…地区補助金、個人向け補助金、マッチング・グラント、又今年から凍結が解除された3H (保健、飢餓、人間尊重) プログラム

ポリオ・プラスプログラム

以上のような財団プログラムを通してロータリー財団の使命である国際的活動に新たに、地域レベル、全国レベルの活動を加えることによってロータリー財団活動の基盤と範囲がさらに広がることとなり、奉仕を更に強化して行くためには、活動の充実と資金面の援助が重要となっております。ロータリー財団の活動源は全てのロータリアンによる奉仕、財政的援助を自発的に行動しようとするロータリアンによってのみ成り立つことは勿論です。

この基本を成しているものが年次寄付と恒久基金への寄付です。

年次寄付…財団プログラムを継続させるための燃料の役割を果たしています。毎年クラブと地区は、年次寄付の目標額を設定しロータリアンは毎年、この目標額を達成するために努力しています。このような財団の継続的な支援のことを「年次寄付」と致します。「年次」というのは毎年続けられるからであり、3年後のプログラムに使われています。2001年の規定審議会でも2005年までに毎年1人当たり寄付を100ドルにする決議 (01-276) で採択され、さらに2004年の同審議会で「Every Rotarian, Every Year \$100」が支持されました。これは1人当たり毎年100ドル以上を寄付するということです。

恒久基金…管理委員会は、世界理解と平和のための財団基金 (1982年発足) に代わるものとして採択した名称で、この基金の目的を世界中のロータリアンに理解してもらうためにこの名を付したということです。

2004年9月現在、この累計は1億4,120万ドルで、予測額 (収益や誓約) は2億7,600万ドル、計4億1,720万ドルです。2005年ロータリー100周年までに5億ドル、2025年には10億ドルにするのが夢とのことです。

年次寄付は今日の財団プログラムを支援、恒久基金は明日のプログラムを安定したものにします。この二つの基金の違いをロバート・バース元RI会長は「年次寄付は毎日庭に水を撒き、花々に水分を供給するものです。恒久基金はいつでも水をかけるように十分な水を用意している貯水池のようなもの」と表現しています。恒久基金への寄付は金額を問わず、いくらでも寄付が可能で通常1,000ドルの寄付者はベネファクターとして表彰を受けることができます。ポリオ・プラスは使途指定寄付で昨年まで3年に亘り一人1年間50ドル、3年間で150ドルが目標でしたが、私の説明不足からか当地区はDDF5,000ドルを加えても一人平均90ドル弱に終わりました。150ドルを達成したクラブは15クラブ、残念ながらこの趣旨にご理解を得られなかったのか、又お忘れになってしまって達成率0のクラブが数クラブあったのが残念でした。使途指定寄付はこの他にマッチング・グラント、冠名奨学金等がありますが、これらについてはいずれの機会に譲ります。

ロータリーカード…2002-03年度において日本でもロータリーカード (オリコカード) が発行されました。ゴールドカードは年会費10,000円のうち3,000円がロイヤリティとして財団寄付になります。スタンダードカードは参加10,000人に達すると使用額の0.3%がロイヤリティとして財団に還元されます。このカードは永久

年会費無料です。既発行のカードにもう一枚、このカードを加えて戴き、財団に奉仕の形をとって戴きたいと思っております。

大口寄付…年次寄付、使途指定寄付、恒久基金寄付の合計で10,000ドル以上の寄付を行った方を大口寄付者 Major Donorであり、2004年6月まで世界で5,633名、日本では2004年10月30日現在555人です。当地区でも大口寄付者への参加を望んでおります。

財団の友、財団の友クラブ…ポール・ハリス・フェローとして認証されるために一括1,000ドルを寄付するのではなく、無理のない範囲で1回目に100ドルを寄付し1,000ドルに達するまで随時寄付するというポール・ハリス準フェロー制度がスタートしたのは1957年でした。この名称が1999年にRotary Foundation Sustaining Memberに変わり再び2002年に財団の友に再定義されました。「財団の友」会員は年次プログラム基金へ毎年100ドル以上寄付する人のことです。クラブ会員全員が財団の友になりますと100%財団の友クラブと呼ばれ、バナーが送られます。既に日本では3クラブが財団の友クラブです。当地区でもこの形のクラブの出現を待っております。

以上財団月間に因んで、財団と寄付についての概要について触れましたが、財団プログラムに積極的に参加、奉仕した喜びと満足感を得て戴ければと祈っております。

《Every Rotarian, Every Year \$100 毎年あなたも100ドルを》



ロータリー財団寄付について

ロータリー財団委員会

委員〈増進担当〉 **大村孝男** (千歳RC)

□年次寄付と恒久基金寄付

ロータリー財団には年次寄付と恒久基金寄付の二つの寄付方法がありますが、年次寄付に関しては、2004年の規定審議会で、「Every Rotarian, Every Year \$100 (毎年あなたも100ドルを)」というスローガンが支持されました。

年次寄付とは財団プログラムを継続させるための燃料の役目を果たすものであり、毎年クラブと地区は年次寄付の目標額を設定し、ロータリアンはこの目標額を達成するために努力しています。一方、恒久基金寄付は、財団の強固な将来を確実なものにするためのものであります。と言いますのは、年次寄付は3年間利殖のために運用された後、3年後に元金を使用されるものですが、恒久基金は元金は使われず、収益のみ使用されるものであるからです。年次寄付は今日の財団プログラムを支え、恒久基金は明日へのプログラムを安定したものにするという違いがあります。

□財務内容

寄付金合計は表1に示すように毎年7~8,000万ドルくらいです。2002-03年度の寄付金は1億ドルを超えています。これはこの年度からポリオ・プラスの寄付が始まったことによるものです。これに対し各プログラムに使われる支出は、1億1千万ドルくらいが毎年コンスタントに使われています(表2)。したがって、寄付金収入より支出が多い状態です。この差を補っているのが投資収益で、1999年には4,470万ドルの投資収益がありました。寄付金合計と併せた収入総額が1億1,800万ドルに対し、支出は1億1,400万ドルであり、この年の財団の収支バランスは非常に健全であったと言えます。しかし、2000年以降は投資収益に大きな損失が生じ、2000年は1,380万ドルのマイナス、2001年は4,020万ドルのマイナスになり、収入総額は2000年では6,010万ドル、2001年は4,080万ドルにまで減少しています。幸いにも、この減少は一時的なもので、2002年からは投資収益が改善され、2002年は540万ドルの収益が出ています。また、非公式な数字ですが、2003年は7,360万ドルの投資収益があったようです。

つぎに、表2の「財団の資産の増減」ですが、これは収入の部の収入総額と支出の部の支出総額の差を示したものであり、99年は580万ドルのプラス、2000年は5,550万ドルのマイナス、2001年は7,090万ドルのマイナス、2002年は2,720万ドルのプラスになっています。この結果、表3の財団の純資産は99年に5億9,280万ドルあったものが、2000年には5億3,730万ドル、2001年には4億6,640万ドルまで減っております。2002年は少し持ち直しましたが、これは財団の資産の大部分が株式市場に投資されていることに起因するもので、現在の株価を維持している限りは財団の資産内容は改善されるものと思えます。

もう一度財団の財務内容について整理しますと、財団のお金はその大半が株式で運用されている以上、high-risk、high-returnであることは仕方ないと思えます。数年前までは世界的な不況下にあり、運用益どころか運用損になっていましたが、改善の兆しが見えてきています。

大切なことは、一人でも多くのロータリアンに財団の実情を理解していただくことだと思えます。その上で、寄付していただくことが重要と考えます。

□各クラブへのお願い

われわれロータリアンは、ロータリー財団に寄付された浄財を有効に活用して、人類のために奉仕する権利と義務を持っていると言えらると思えます。本年度も昨年同様「Every Rotarian, Every Year \$100」のスローガンのもと、地区目標を30万ドルに定めさせていただきます。昨年度同様、1人当たり100ドルの寄付をお願い申し上げます。

表1 財務内容：収入の部

		2002-2003	2001-2002	2000-2001	1999-2000
寄 付	年次プログラム	55.8	67.5	61.1	61.0
	恒久基金	5.2	8.7	11.2	10.1
	ポリオ・プラス	72.0	5.0	1.9	1.9
	一時的に使用指定		-0.2	-0.3	0.7
寄 付 金 合 計		133.0	81.0	73.9	73.7
投 資 収 益	年次プログラム	2.8	-31.0	-14.4	29.6
	恒久基金	0.4	-12.7	-4.9	9.0
	子供たちのための機会補助金			0.1	0.3
	ポリオ・プラス	2.2	3.5	5.4	5.8
投 資 収 益 合 計		5.4	-40.2	-13.8	44.7
収 入 総 額		138.4	40.8	60.1	118.4

単位：百万ドル

表2 財務内容：支出の部

		2002-2003	2001-2002	2000-2001	1999-2000
プログラム の 補 助 金	人道的プログラム	28.4	41.5	38.3	31.4
	教育的プログラム	26.9	24.2	26.7	28.6
	ポリオ・プラス	38.8	29.7	36.6	40.2
合 計		94.1	95.4	101.6	100.2
運 営 費		16.1	16.3	14.0	13.9
総 額		110.2	111.7	115.6	114.1

R I からの資金移管					1.5
財団の資産の増減		27.2	-70.9	-55.5	5.8

単位：百万ドル

表3 財務内容：純資産

		2002-2003	2001-2002	2000-2001	1999-2000
資 産	投資	519.2	521.0	595.2	658.5
	現金、その他	45.1	21.1	25.8	19.6
合 計		564.3	542.1	621.0	678.1
負 債	未払い補助金	53.7	51.0	59.1	55.5
	その他の支払い勘定他	17.0	24.7	24.6	29.8
合 計		70.7	75.7	83.7	85.3
純 資 産	年度期首	466.4	537.3	592.8	587.0
	現年度（増減額）	27.2	-70.9	-55.5	5.8
合 計		493.6	466.4	537.3	592.8

単位：百万ドル



ロータリー財団国際親善奨学金 当地区の現況

国際親善奨学金委員会

委員長 瀧川 哲夫 (札幌手稲RC)

ロータリー財団国際親善奨学金は世界最大の私的資金による、ロータリーが誇るべき教育プログラムです。1947年創設で、現在はおよそ70ヵ国から年間1,300人の奨学生を互いに派遣しており、世界中に広がる35,000人以上の奨学生学友（帰国奨学生）のネットワークが作りあげられています。

この奨学金には2種類あり、文化研修のための奨学金は海外での3ヵ月または6ヵ月間の集中語学研修と文化研修のために授与されます。1学年度またはマルチ・イヤー奨学金は、1学年または2年間の、主として大学院での勉学のために授与されます。これらは地区の財団寄付によるDDF（地区財団活動資金）でまかなわれます。この他に、国際平和奨学金というのがありますが、これは地区単位のDDFではなく、日本全地区からの寄贈DDFの蓄積にもとづく全国選考となります。国際平和奨学金については、これまで当地区での応募がないため、現在は募集していません。

この奨学金は、国際理解と世界平和を促進するために、ロータリーの使命を果たす親善使節を派遣するものです。この奨学金が他の奨学金と根本的に異なるのは、奨学生にとって、単に資金援助を受けるというだけのものではないところです。奨学生は留学前、留学中、そして帰国後も、ロータリークラブおよびロータリアンを通じて、ロータリーの世界を体験します。各奨学生には、スポンサー地区とホスト地区の双方でクラブのカウンセラー（顧問ロータリアン）が任命され、留學生活を円滑に過ごすことができるように、オリエンテーションや助言を与え補佐します。このことにより、奨学生は他の奨学金制度では経験できない世界を知り、そして、国際的なロータリーの支援が留學中にも大きな収穫をもたらすこととなります。

当地区では、2005-06年度に9名を派遣しており、すでにほとんどの奨学生が現地で活躍しています。特に、合衆国オレゴンに派遣された佐久間早苗さん（札幌南RC）は、文化研修のかたわら、ハリケーン・カトリナの被害者に対するオレゴンでの支援リーダーとして活躍し、派遣地区でも高く評価されています。

2006-07年度には7名の奨学生を派遣することが決まっております、現在オリエンテーションを受けています。

2007-08年度の派遣奨学生は2006年1月頃から募集を開始し、6月には候補者を決定します。

応募に際しては、当地区ロータリークラブ（スポンサー・クラブ）の推薦が条件になっています。クラブによる推薦に際しては、応募者が当地区の親善使節としてふさわしいかどうかを判断してください。スポンサー・クラブとしての財政的負担はほとんどありませんが、クラブ例会（卓話）、クラブ活動への参加をうながして、ロータリーの世界を積極的に教示していただくようお願いいたします。



05-06年度派遣奨学生（壮会にて）

左から、今村真希子（1学年度、カンザス大学大学院、新札幌RC）、小黒智子（6ヵ月、イタリア、札幌西RC）、中川翼（3ヵ月、カナダ、札幌手稲RC）、光原未来（3ヵ月、英国、札幌RC）、川西景子（3ヵ月、オーストラリア、札幌大通公園RC）、佐久間早苗（3ヵ月、合衆国・オレゴン、札幌南RC）、牛山高志（マルチ・イヤー、ミシガン州立大学大学院、札幌北RC）

（上）石黒要（6ヵ月、インドネシア、札幌北RC）
（下）榊田健志（1学年度、コロラド大学ボルダー校大学院、札幌手稲RC）



06-07年度派遣予定奨学生（留學先についてはロータリー財団の指定待ち）

左から、清水孝俊（3ヵ月、ドイツ希望、札幌東RC）、内田由香（6ヵ月、フランス希望、江別西RC）、伊藤正貴（1学年度、合衆国希望、札幌モーターリングRC）、内本智子（6ヵ月、フランス希望、札幌西RC）、阿部愛美（6ヵ月、フランス希望、札幌真駒内RC）、権平裕美子（1学年度、英国希望、札幌南RC）、松永理恵（6ヵ月、カナダ希望、札幌あけぼのRC）



研究グループ交換(GSE)プログラム 開設40周年にあたり

GSE (研究グループ交換) 委員会
委員長 岡崎 芳明 (小樽南RC)

1965年に研究グループ交換 (GSE) プログラムが出来て、今期でちょうど40周年を迎えます。

ロータリー財団の資金を効果的に活用するこのGSEプログラムは、今までに32,000人以上の男女に職業、文化、交流を通して感動的な体験を与えて参りました。

私どもの地区では1970-71年度に故小泉正美派遣リーダー (旭川西RC) ほか団員3名 (計4名) のGSEチームが米国アイオワ597地区へ派遣され、翌71-72年度に同じ米国アイオワ597地区よりチームリーダー他3名の団員からなる派遣GSEチームを受け入れたのが、我が地区最初のGSE交換プログラムです。それ以来昨年度13回目のGSE交換プログラムとして、タイ・バンコク3350地区から受け入れを行いました。その節、地区内の皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。

今期は来年2月25日から3月25日の29日間3350地区への派遣に当たり、現在橋本信夫新チームリーダーを中心とした4名の団員が毎月半日間の研修に励んでおります。必ずやGSEプログラム開設40周年を記念するに相応しいプログラムになると期待しております。

しかしロータリアンの皆様の中にはGSEという言葉は知っていても、実際にどのような活動なのかを御理解頂けている方は案外少ないと思われまます。尋ねてみますとGSEが単なる外国との親睦交換のプログラムと思っている方が多いのには驚いております。

GSEプログラムはロータリー財団の教育的プログラムの1つであり、25歳から40歳迄の専門職経験の浅い職業人に文化体験や職業経験として、またとない国際交流の場を提供する機会であり、国際化の進む地域社会のニーズに対応出来る国際人としての専門職の技量と指導力を磨く事が出来るプログラムです。

更にGSEプログラムはホームステイを中心としているが故に、普段の旅行では経験出来ない海外文化との交流と親睦体験を味わう事が出来、受け入れ国に滞在中は自分の専門職の研修の機会が必ず (職業研究日として) 設けられている為、自国に帰ってからの自分の仕事や地域社会に役立つ経験を積む事が出来る素晴らしい機会と成り得ます。

実際受け入れたGSEチームのメンバーからの報告書では、滞在地での素晴らしい体験を通し日本のイメージがより良いものになったと、又派遣団員からは人生の中で最も得難い経験の1つで有り、沢山の方にこのGSEプログラムの素晴らしさを味わって頂きたいという意見が大半を占めております。

この様にGSEプログラムは国際親睦の面は基より、ロータリアンの奉仕精神やロータリーの教育活動を広く世界に示す最高の広報媒体になるものと確信しております。

是非ロータリー財団月間にあたり、皆さんのクラブで過去に派遣したGSEメンバーの体験談を披露する機会を与えて頂きたく思うと共に、ロータリー財団に対するご理解と御支援、並びにGSEプログラムに対する御協力を重ねてお願い申し上げます。

是非RI2510地区GSEホームページを御覧下さい。

アドレス<http://www.ri2510.gr.jp/GSE/framepage.html>



橋本新チームリーダーを中心にGSE委員を交えての派遣研修模様





GSEメンバー紹介 ③

GSE派遣チームメンバー
中内 健太

2005-06年度タイGSE派遣チームメンバーの中内です。我々GSE派遣チームメンバーは毎月1回ですがタイでの研修に向けて研修会を行い、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを作成したり、活動計画を立てたりと様々なことに取り組んでいます。特にタイで行うプレゼンテーションでは北海道のすばらしい魅力（旬の幸、景色など）や特徴ある日本文化を伝えたいと考えております。

私は北海道赤十字血液センターに勤務している臨床検査技師です。日々輸血を必要としている患者さんに安全な血液製剤を確実に供給出来るように検査を行っています。タイではこの血液事業がどのように取り込まれ、日本との共通点・相違点はあるのか興味深いものが有ります。私の職業は医療にも関わる仕事なのでタイの病院も見学出来ればと希望を出しています。病院の中にある検査室ではどのように検査されているのか自分の目で確認してこようと思えます。また海外初経験なので、タイで経験する全てが強烈に鮮明に記憶されることと思えます。この経験が今後の人生の大きな糧になると思われるので頑張って研修をしていきたいです。

現地でのコミュニケーションで少しでも困らないように今月から英会話に通い始めました。もちろんタイ語も少しずつ勉強していきたいと考えています。

このプログラムをチームメンバー一丸となって成功させたいと思っています。

帰国後タイでの様々な経験や体験したことを皆さんにお伝え出来ればと考えております。



財団学友委員会の活動について

財団学友委員会

委員長 松下文芳 (江別西RC)

10月15日、国際ロータリー第2510地区大会当日、札幌コンベンションセンター内において塚原房樹ガバナーをお迎えして学友会の総会が開催され、多くの学友と共にロータリアンの方々に参加して戴きました。

これからは学友会の活動をもっとロータリアンに理解されるよう各クラブに学友会の活動を情報として発信します。ロータリークラブの例会において、学友が卓話の機会を多くもてるよう、会長・幹事の皆様をお願いを致します。まず語り合うこと、若い学友のエネルギーをロータリアンに、それからロータリーの活性化にも繋がっていくものと信じております。

若い人達の中で学友ほど、ロータリーを理解している人達はいないわけですから、彼らを通じ広く社会にロータリーとその活動を知ってもらうことが重要であると考えます。学友の活動を積極的に支え、より多くの活動ができるよう

昨年より各クラブ、各ロータリアンの方々に支援をお願いしているところです。皆様から寄せられた貴重な浄財を活用して学友会の活動の場を広げ、学友が自信を持って活動できるよう、助言と援助を行うのが当委員会の大きな使命であります。

各クラブと学友会とのコンダクターとしての場を広げてまいりますので、宜しくお願い致します。



塚原ガバナー



菅原学友会会長



松下学友委員会委員長



補助金委員会について

補助金委員会

委員長 **朝倉正人** (札幌東RC)

今年度の地区の補助金委員長を仰せつかりました。札幌東ロータリークラブの朝倉でございます。補助金委員会に所属して未だ間がありませんが、委員会の皆様にお力添えを頂きやっていきたいと思っております。補助金委員会の活動については、4つ位の活動に対して補助金を支出致しますが、マッチンググラントと地区補助金が多いと思っております。

委員会は各クラブから活動計画書、申請書が提出され、それを厳正かつ適切に審査することでございます。

この第2510地区には73のロータリークラブがあります。各クラブでは職業奉仕、社会奉仕活動をしておりますが、その中で独自の奉仕活動、地域に密着した活動に対して又自ら会員が汗を流す奉仕活動に対して補助する、援助することになります。

ただ物を買って差し上げることは遠慮して頂き、継続事業については対象外となります。

マッチンググラントは2ヶ国以上のロータリークラブが協力し合い、奉仕することに補助するものであります。クラブでは世界社会奉仕委員会との連動にならうと思っております。

補助金の支出をする目安として3年前のロータリー財団への寄付及クラブの自主申告の実績表を参考にし、活動内容を審査し判断して参りたいと思っております。昨年度は18,000ドル予算があり多くの申請がありました。今年度は29,000ドルの予算を用意しておりますが、現在2件の申請しかなく各クラブから活動計画書をお待ち申し上げています。

しかし、予算の関係もございまして満足な補助金は出せないと思っておりますが、出来るだけ考えていきたいと思っております。

内容、予算についてご遠慮して頂く場合又減額のお願ひもあると思っておりますので、ご理解を頂きたいと思っております。

いずれにしても塚原ガバナー、遠藤ロータリー財団委員長、菅原監督委員長さんのご助言を頂き活動して参りますので宜しくお願い致します。

ロータリー財団寄付報告

(9月末日現在)

地区番号	会員数	地区目標	1人当たりの寄付	年次寄付	使途指定寄付	恒久基金寄付	寄付総額
2500	2,676	133,369	\$9.03	24,157.25	0.00	2,000.00	26,157.25
2510	3,141	295,595	\$11.28	35,417.99	790.70	1,000.00	37,208.69
2520	2,814	131,483	\$11.66	32,822.32	3,703.96	0.00	36,526.28
2530	2,645	276,835	\$15.32	40,512.71	2,142.59	6,100.00	48,755.30
2540	1,287	129,325	\$5.81	7,474.18	500.00	0.00	7,974.18
2550	2,078	238,569	\$7.90	16,421.26	1,092.86	2,000.00	19,514.12
2560	2,193	218,250	\$15.78	34,603.30	0.00	0.00	34,603.30
2570	2,129	216,903	\$30.83	65,641.26	2,335.00	18,773.57	86,749.83
2580	3,641	307,970	\$20.25	73,741.72	0.00	14,000.00	87,741.72
2590	2,718	313,864	\$45.51	123,692.46	2,349.67	42,800.00	168,842.13
2600	2,420	231,500	\$17.33	41,942.72	0.00	3,000.00	44,942.72
2610	3,057	305,032	\$20.25	61,889.77	3,060.00	9,120.00	74,069.77
2620	3,719	358,400	\$14.64	54,461.47	0.00	5,000.00	59,461.47
2630	3,853	387,357	\$3.16	12,166.11	2,000.00	1,000.00	15,166.11
2640	2,763	430,600	\$40.47	111,818.71	7,900.00	5,545.00	125,263.71
2650	5,317	661,832	\$34.79	184,971.75	406.30	88,843.98	274,222.03
2660	4,274	532,568	\$22.25	95,095.67	2,100.00	2,000.00	99,195.67
2670	3,311	139,072	\$17.84	59,055.99	1,235.93	0.00	60,291.92
2680	3,348	341,692	\$25.95	86,876.69	0.00	3,000.00	89,876.69
2690	3,579	442,441	\$25.18	90,109.53	0.00	42,211.00	132,320.53
2700	3,341	330,548	\$15.19	50,748.74	2,510.00	0.00	53,258.74
2710	3,647	339,715	\$25.74	93,866.63	6,934.63	10,000.00	110,801.26
2720	2,821	237,800	\$13.84	39,056.72	3,517.86	0.00	42,574.58
2730	2,649	166,700	\$10.45	27,680.45	5,175.00	4,000.00	36,855.45
2740	2,622	250,320	\$10.16	26,630.09	9,900.00	6,000.00	42,530.09
2750	5,058	466,363	\$24.95	126,196.29	4,625.00	10,111.11	140,932.40
2760	5,323	524,644	\$25.05	133,346.35	8,083.33	19,071.43	160,501.11
2770	2,914	484,814	\$62.85	183,132.95	26,493.77	139,000.00	348,626.72
2780	2,549	0	\$13.14	33,502.86	0.00	9,000.00	42,502.86
2790	3,201	118,078	\$13.37	42,809.72	10,635.25	35,000.00	88,444.97
2800	2,115	209,040	\$50.35	106,493.49	2,050.00	1,678.57	110,222.06
2820	2,378	301,134	\$16.47	39,174.75	2,508.63	4,000.00	45,683.38
2830	1,291	129,510	\$38.16	49,269.22	0.00	12,000.00	61,269.22
2840	2,148	217,030	\$7.34	15,767.95	719.63	0.00	16,487.58
日本	103,020		\$21.55	\$2,220,549.07	\$112,770.11	\$496,254.66	\$2,829,573.84
世界	1,181,152		\$10.54	\$12,454,036.97	\$4,696,499.58	\$3,855,142.45	\$21,005,679.00



第1回地区クラブ奉仕委員会

クラブ奉仕委員会

委員長 羽部大仁 (札幌南RC)

日時：平成17年7月30日（土）午後7時開会／場所：オリゾンテ

参加者：富原カウンセラー、堅田副委員長、戸部委員、山本委員、杉目委員／記録：羽部／欠席者：近藤委員

1) 地区委員会としての計画 「超我の奉仕」について

ロータリーの広報に関して富原カウンセラーからお話を聞きたいと思います。
本年度の地区委員会として「メディアフォーラム」の実施は？
次年度に向けて、準備をする。各地区での地域に根ざした活動を調査する。

2) 会員増強と退会防止

クラブ奉仕の重要性を認識して、楽しいクラブ例会のヒントを探る。
マンネリ化したプログラムを思い切って新企画のプログラムにチャレンジする。

3) 地区ホームページの更新について

8月29日に長沼RCに取材に参ります。
国際フェスティバルに関してその他に1クラブを推薦して下さい。地方のクラブが良いのですが…

4) その他

「ロータリーの広報に関して」 富原カウンセラー

7月9-10日の両日東京プリンスホテルに於いて、ガバナーの初顔合わせと懇話会に参加して来た。新年度の挨拶やテーマについての話や広報についてもお話しがありました。それには広報活動のポイント、広報が何故必要か。基本的理念については、広報活動によって会員増強は？これはいささか反対であるが、今までの活動をロータリーは深く反省しなければいけない。

まず1)に一般地域住民に向けた広報とロータリアンに向けた広報は違う！テクニックが違うと思う。一般の人々のロータリー感は、「お金持ちの昼食会」私も以前はアンチロータリアンであった。しかし、会社での立場や付き合いで、社交場の発想で入会した。ロータリアンとしてのステータスと魅力を持って活動して、これによって会員増強になると理想的である。

ロータリーの一業種一人制、発生当時4人の仲間が集まって話し合ったことは、ロータリーの理念「超我の奉仕」の実践であった。専門職業人の一人を選んで会員にする。選ばれた人々が集まり、異業種の仲間になろう！そして相互扶助を行い、そこにビジネスチャンスが生かされた。

手段と方法—外向きの方法と内向きの方法を考えなければいけない。この両者を満足させることを広報する。
従来ロータリーは宣伝が下手でした。良いことを黙々と実践するような美学を持って活動してきたのかも知れない。

地域社会との接点を見失っていないか？自分自身の足下が見えていないのではないか？もう少し地域社会に対してロータリーはこんな活動をしていますよ！何か地域社会の皆様にお手伝いすることはありませんか？とここに四大奉仕を通じてロータリーが地域社会に理解されていく架け橋になることが願われている。即ち内向きだけの広報に終始せず、外向きの広報が今願われている。今、地区におけるクラブ奉仕委員会の役割は重大のものと確信している。併せて本年度は委員会に「ロータリーの広報」が追加された訳ですからその任務は一層大切になった。各委員が英知を出し合って有意義な一年間の委員会活動にして頂くことを念願したい。

ご協力に感謝申し上げます

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

井原 敏 男 会員 1回 (新札幌RC) 9月2日
井門 英 明 会員 2回 (美唄RC) 9月9日
宮本 隆 支 会員 1回 (札幌セントラルRC) 9月30日

南原 幹 生 会員 (岩見沢東RC) 9月2日
梨本 忠 一 会員 (岩見沢東RC) 9月2日
田口 剛 志 会員 (岩見沢東RC) 9月2日
桜田 伸 也 会員 (森 RC) 9月30日

ポール・ハリス・フェロー

大谷 律 子 会員 (浦河RC) 8月29日
折笠 真 仁 会員 (岩見沢東RC) 9月2日

ベネファクター

三浦 武 美 会員 (美唄RC) 9月2日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

米山功労者

林 完 治 会員 1回 (函館東RC) 7月5日
大島 利 一 会員 1回 (札幌西北RC) 7月28日
佐藤 寿 夫 会員 3回 (室蘭RC) 7月29日
若林 成 治 会員 1回 (札幌清田RC) 8月10日
池田 春 男 会員 3回 (江別RC) 8月26日
小笠原 孝 会員 10回 メジャードナー
(函館北RC) 8月26日
西原 宗 幸 会員 1回 (岩見沢東RC) 8月29日
津本 美智代 会員 1回 (岩見沢東RC) 8月29日
上野 弘 美 会員 1回 (岩見沢東RC) 8月29日
渡辺 勝 治 会員 1回 (岩見沢東RC) 8月29日
竹原 巖 会員 6回 (札幌北RC) 8月30日
木村 修 会員 3回 (苫小牧東RC) 9月5日

松下 昌 平 会員 1回 (苫小牧東RC) 9月5日
谷口 良 一 会員 3回 (札幌北RC) 9月6日
武市 雄 弘 会員 1回 (美唄RC) 9月8日
佐藤 公 会員 1回 (札幌北RC) 9月13日
白崎 邦 彦 会員 1回 (札幌東RC) 9月27日
小林 博 会員 7回 (札幌北RC) 9月28日
伊藤 長 英 会員 21回 (苫小牧北RC) 9月28日
丸屋 憲 一 会員 5回 (苫小牧北RC) 9月28日

米山功労クラブ

札幌清田RC 2回 9月6日
苫小牧北RC 12回 9月28日
函館五稜郭RC 11回 9月30日

ポール・ハリスの住まい カムリーバンク募金報告

7月下旬、地区内各クラブに募金のお願いを致しました『カムリーバンク募金』について、下記の28クラブから総額728,351円を頂戴致しました。

10月12日、日本での取りまとめ先であるガバナー会へご送金致しましたのでご報告致します。ご協力誠にありがとうございました。

妹背牛RC・留萌RC・美唄RC・江別RC・岩見沢RC・岩見沢東RC・
栗山RC・当別RC・札幌RC・札幌モーニングRC・札幌西RC・札幌西北RC・
札幌手稲RC・札幌東RC・札幌清田RC・札幌幌南RC・札幌真駒内RC・札幌南RC・
新札幌RC・岩内RC・小樽RC・室蘭RC・室蘭北RC・洞爺湖RC・
函館RC・長万部RC・函館五稜郭RC・苫小牧RC

国際ロータリー為替レート 2005年11月 米貨1ドル=112円

新入会員のご紹介・例会変更について・文庫通信

新入会員のご紹介

(敬称略)



田中 孝

苫小牧RC
平成17年
8月5日入会



森 昌弘

苫小牧RC
平成17年
8月26日入会



中村 信仁

札幌東RC
平成17年
8月18日入会



矢島 泰司

札幌東RC
平成17年
8月25日入会



田中 満雄

札幌東RC
平成17年
9月8日入会



北川 文夫

滝川IRC
平成17年
9月1日入会



佐伯 敏和

滝川IRC
平成17年
9月22日入会



尾本 眞二

千歳セントラルRC
平成17年
10月2日入会

例会曜日・例会時間・例会場の変更について

岩見沢 RC：11月4日（金）休会
（定款第5条第1節による）

倶知安 RC：11月9日（水）夜間例会 18：30～

室蘭東 RC：11月9日（水）登別・白老・室蘭東
RC合同家族同伴夜間例会
場所：登別ホテル平安

11月13日（日）家族同伴野外例会

11月16日（水）振替休会

11月30日（水）振替休会

室蘭北 RC：11月22日（火）振替休会

苫小牧北RC：11月22日（火）休会

（定款第5条第1節による）

文庫通信 217号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

「ロータリーの心を尋ねて」

◎「ロータリー入門書 2005-2006年度版」
前原勝樹；重田政信(改訂) 2005 190p
[申込先：重田政信 FAX(027)363-4338]

◎「理想的なロータリークラブの条件」
南園義一 2005 3p (D.2730 月信)
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

◎「ロータリーの心を尋ねて 追録」
松田尊文 大牟田RC 2005 18p
[申込先：大牟田RC FAX(0944)57-7220]

◎「ロータリーに生き抜かれた宮脇 富先生を偲び」
大田RC 2005 39p
[申込先：大田RC FAX(0854)82-5121]

◎「ロータリーと米山奨学会」
島津久厚 2004 7p (D.2700 地区大会基調講演)
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

◎「超我の人 米山梅吉の聲音」

米山梅吉記念館 2005 266p
[申込先：米山梅吉記念館 FAX(055)989-5101]

◎「点描 米山梅吉」
谷内宏文 2005 369p [申込先：新風舎 TEL(03)3746-4648]

◎「『決議23-34』を守る意義とその歴史 一心のよりどころを守って」
D.2780 2005 8p (D.2780 地区史)
[申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

◎「1911年11月号のThe National Rotarian 第1号に掲載のコリンズのスピーチ原稿」
8p (D.2680 月信) [申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

「ロータリー文庫」

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

9月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,986人
当期末会員数(女性)	3,078人(96人)
増加会員数	92人
当月平均出席率	84.93%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	05.9.30	増減	内女性	
1	深川	4	38	39	1	2	88.89
	羽幌	4	49	49	0	1	74.44
	妹背牛	4	10	10	0	0	82.50
	小平	4	13	13	0	0	82.69
	留萌	4	49	51	2	0	90.69
	小計		159	162	3	3	83.84
	2	赤平	4	34	34	0	2
芦別		4	48	48	0	0	88.70
砂川		4	50	52	2	0	95.92
滝川		5	106	108	2	1	75.00
小計			238	242	4	3	85.74
3	美唄	5	41	40	-1	0	96.00
	江別	5	36	38	2	1	84.86
	江別西	4	35	36	1	3	92.35
	岩見沢	4	95	94	-1	0	90.66
	岩見沢東	4	35	36	1	4	84.10
	栗沢	4	24	24	0	1	93.75
	栗山	4	26	27	1	2	95.83
	当別	3	38	38	0	1	78.07
小計		330	333	3	12	89.45	
4	札幌	4	123	129	6	0	98.26
	札幌あけぼの	4	16	16	0	1	100.00
	札幌はまなす	4	23	25	2	4	75.00
	札幌北	3	43	42	-1	5	94.17
	札幌モーニング	4	53	53	0	0	73.04
	札幌西	4	72	73	1	4	91.20
	札幌西北	5	48	48	0	2	91.77
	札幌手稲	3	41	41	0	1	98.37
	小計		419	427	8	17	90.23
5	札幌東	5	121	122	1	0	97.72
	札幌清田	4	28	29	1	6	100.00
	札幌幌南	4	70	70	0	0	99.62
	札幌真駒内	4	46	48	2	3	92.67
	札幌南	3	89	93	4	0	95.42
	札幌大通公園	4	19	19	0	4	68.42
	札幌セントラル	4	17	18	1	5	72.90
	新札幌	3	32	34	2	2	94.33
小計		422	433	11	20	90.14	

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	05.9.30	増減	内女性	
6	岩内	4	28	30	2	0	70.19
	倶知安	4	50	50	0	3	59.00
	小樽	4	64	71	7	0	74.61
	小樽南	4	82	81	-1	0	88.82
	小樽銭函	5	25	25	0	3	92.00
	蘭越	4	11	11	0	0	86.35
	余市	4	44	44	0	4	94.30
	小計		304	312	8	10	80.75
7	千歳	4	61	66	5	3	84.10
	千歳セントラル	4	27	27	0	0	86.10
	恵庭	4	49	49	0	0	73.91
	北広島	3	17	17	0	2	88.24
	長沼	3	18	18	0	3	91.00
	由仁	4	13	13	0	0	92.31
	小計		185	190	5	8	85.94
8	えりも	5	23	23	0	0	88.70
	三石	3	16	17	1	1	92.10
	様似	3	18	18	0	1	54.20
	静内	3	66	70	4	0	86.66
	浦河	4	33	34	1	1	86.77
	小計		156	162	6	3	81.69
9	伊達	4	55	59	4	0	76.27
	室蘭	4	50	51	1	0	98.04
	室蘭東	4	43	47	4	0	88.90
	室蘭北	4	37	38	1	2	100.00
	登別	4	36	36	0	2	83.33
	洞爺湖	4	9	9	0	0	100.00
	小計		230	240	10	4	91.09
10	函館	4	91	93	2	0	82.15
	函館亀田	3	43	43	0	1	83.72
	森	4	42	42	0	0	75.20
	七飯	4	20	22	2	0	69.30
	長万部	4	10	10	0	0	55.00
	函館セントラル	4	0	30	30	2	71.67
小計		206	240	34	3	72.84	
11	江差	5	17	17	0	0	77.50
	函館五稜郭	4	63	62	-1	0	96.30
	函館東	4	43	42	-1	4	82.92
	函館北	4	32	33	1	0	84.09
	上磯	4	26	25	-1	2	64.00
	松前	5	9	9	0	1	70.00
小計		190	188	-2	7	79.14	
12	白老	4	23	23	0	0	70.00
	苫小牧	4	56	58	2	1	73.33
	苫小牧東	4	31	30	-1	3	95.08
	苫小牧北	4	37	38	1	2	92.86
	小計		147	149	2	6	82.82
合計		2,986	3,078	92	96	84.93	

地区カレンダー (11月・12月)

11月 ロータリー月間	
1 (火)	
2 (水)	
3 (木)	文化の日
4 (金)	
5 (土)	
6 (日)	米山奨学生・学友・ロータリアン そして家族との交流会 (札幌)
7 (月)	
8 (火)	
9 (水)	
10 (木)	
11 (金)	
12 (土)	ローターアクト北海道交流会 (札幌)
13 (日)	ローターアクト北海道交流会 (札幌) 第7グループIM (長沼)
14 (月)	
15 (火)	
16 (水)	
17 (木)	
18 (金)	
19 (土)	GSEプレゼンテーション
20 (日)	
21 (月)	
22 (火)	
23 (水)	勤労感謝の日 第9グループIM (伊達)
24 (木)	ロータリー財団地域セミナー
25 (金)	第2回ガバナー会
26 (土)	ロータリー研究会 (東京) ローターアクト地区協議会 (室蘭)
27 (日)	ロータリー研究会 (東京) ローターアクト地区協議会 (室蘭)
28 (月)	
29 (火)	公式訪問 (函館セントラル)
30 (水)	

12月 ロータリー家族月間	
1 (木)	
2 (金)	
3 (土)	
4 (日)	
5 (月)	
6 (火)	
7 (水)	
8 (木)	
9 (金)	
10 (土)	
11 (日)	
12 (月)	
13 (火)	
14 (水)	
15 (木)	
16 (金)	
17 (土)	
18 (日)	
19 (月)	
20 (火)	
21 (水)	
22 (木)	
23 (金)	天皇誕生日
24 (土)	
25 (日)	
26 (月)	
27 (火)	
28 (水)	
29 (木)	
30 (金)	
31 (土)	

SERVICE Above Self

